

# すわみつえ通信

No.165 2021年3月15日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諒訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7  
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151  
携帯: 080-5039-2785  
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp  
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

常任委員会は3月8日(火)に田程2日田として開催され、2021年度一般会計当初予算案と特別会計介護保険当初予算案の文教福祉に関する事業の審査を行いました。「口ナ禍においてスマーズな運営となるよう」と、予め質疑の通告を執行部に行っています。一人30分の持ち時間では、十分な審査とは言えなかった。

子育て応援の事業等を予算化

## 歓迎する新たな事業

●生後6ヶ月から6歳までの子どもを対象にインフルエンザ予防接種費用の助成(1回1,000円を上限として2回まで予算額800万円)

●保育園で急な発熱など体調が悪くなつても安心…看護師配置で病児保育の体制をとの園に補助金(予算額447万円)た保護者に特別給付金(予算額2,100万円)

## 文教福祉常任委員会審査にて



すわみつえ市議



難病患者に寄り添わず、  
生活実態を見ない予算

## 市民の声が届かない事業

●子どもの居場所支援として、ネットワークの形成、コーディネーターの配置など(予算額1,740万円)  
●子育てに強い不安や虐待の恐れのある家庭を訪問し、相談や育児・家事援助を行う(予算額1,255万円)  
●認知症の方とその家族に、認知症サポーターをつなぐ支援(予算額250万円)です。

## 福祉充実の予算とすべき と反対討論を行いました

私は、「口ナ禍だから」と市の増額を求めます。  
委員会質疑で他委員が「市民から元に戻すよう要望や意見があつたのか」と質疑があり、当局は「ありません」と答弁をしました。  
すわみつえ委員は、「日本共産党は毎年予算要望書で元に戻すこと」を市長宛に提出していると発言し、「市民の要望書を見ていらないのか」と質しました。当局は「要望書は見ているが、窓口でのような声はない」と答えました。  
歩行も言語もままならない方もいます。市役所窓口に行くことも大変困難なことです。

子育て応援の新たな事業も多くあります。これらに反対するものではありませんが、難病患者手当などの福祉に関わる予算を削ったままで、敬老祝金の対象年齢を変えるなど、また新たに削る予算であり、生業も暮らしも大変な「口ナ禍だから」と、福祉充実生活応援の予算とすべきと指摘し、一般会計予算と介護保険予算に反対をしました。

指定数が5倍に増えたからと、「一ヶ月5,000円を10,000円に減額しました。ところが、手当を受給している人數は増えています(予算額740万円)。

俳句コーナー

梅日和心はすでに一人旅

民子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。  
(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

**午後2時46分、次の一步に 福島県、東日本大震災から「10年」**



東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の影響で140人が犠牲になった大熊町。鎮魂と古里再生への願いを込めて作った2011羽の折り鶴を囲んで黙とうする人たち=大熊町役場

福島県に未曾有の被害をもたらした東日本大震災と東京電力福島第1原発事故は3月11日、発生から10年を迎えた。発生時刻の午後2時46分、各地に鎮魂と古里の再生を願い、そして今を生きる県民の姿があった。

決して忘ることのできないあの日。第1原発が立地する大熊町の役場前に2011羽の折り鶴が並んだ。町内的一部で避難指示が解除されたのはわずか2年前。町民は少しずつ復興する古里を感じながら、静かに手を合わせた。

多くの命が失われたあの日から10年、新型コロナウイルス感染症が世界で猛威を振るう。クラスター（感染者集団）が発生した竹田総合病院（会津若松市）は通常の診療体制に戻り、命を守るために戦いを続ける。

県民一人一人に、それぞれの「3・11」、それぞれの10年があった。そしてこれからの10年、ふくしまの未来も、県民一人一人の手で形づくられる。（福島民友新聞 3月12日付）

2月13日夜の11時過ぎ、いつものように二階の寝床に入り本を読んでいたとき、突然、グラ、グラときました。地震だと思い急いで妻と一緒に階段を降りて玄関を開けました。そしてテレビをつけました。福島県沖を震源とする震度6強の地震でした。揺れは収ま

大地震ふたたび——原発再稼働など許されない

宮城革新懇事務室長 高橋 正利

全国革新懇ニュース 2021・3月号 3月10日

## 福島事故10年 きつぱり「原発ゼロ」へ進め

**再稼働など許されない  
新懇事務室長 高橋 正利**

りましたが、すぐに「女川の原発は!」と思いました。市町村会議で女川原発の2号機の再稼働に向けた判断を一任された村井嘉浩宮城県知事は、「規制委員会の安全審査に合格した」として再稼働を進めようとしています。万が一の事故時の住民の避難計画にも大き



な不安があります。3・11から満10年で今回の地震です。さらに今後10年も余震が続くと言われるなか、原発再稼働など断じて許されません。

うち2頭は死亡しましたが、3頭がすくすくと育っています。

100



しんぶん赤旗  
3月5日付

しんぶん赤旗  
3月5日付